

Oil Market Review 22第2号

2022年（令和四年）

4月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/24～3/30のNYMEX・WTI先物市場は、104.24～113.90ドルの範囲で推移した。

3月31日は、米国の1億8千バレルに上る戦略備蓄放出発表を受けて、反落した。また、OPECプラスは5月の減産緩和につき、從来方針を確認し、43万b/dに止めることとしたが、大きな影響はなかった。5月限の終値は前日比7.54ドル安の100.28ドル。

週末1日は、31日の米国政府に続き、国際エネルギー機関(IEA)が放出量等詳細は未定なるも米欧日などの加盟国による備蓄放出の決定を受け、需給緩和期待から続落し、終値ベースで、3月16日以来節目の100ドルを割り込んだ。また、ベーカーハーブ社発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比2基増の533基で2週連続の増加。5月限の終値は前日比1.01ドル安の99.27ドル。

週明け4日は、ロシア軍によるウクライナの首都キーウ近郊での民間人虐殺の疑いで、欧米による対口経済制裁の強化の観測から、3営業日ぶりに反発した。イラン核合意再建交渉の一時中断報道も、値上がり要因。5月限の終値は前営業日比4.01ドル高の103.28ドル。

5日は、中国上海でのコロナ感染再拡大による事実上のロックダウン延長で、需要の停滞が懸念されることから、反落した。また、米国の金利引き上げの加速化報道も値下がり要因。他方、国際エネルギー機関(IEA)における先進国の石油備蓄放出協議が難航していることは、下値を支えた。5月限の終値は前日比1.32ドル安の101.96ドル。

6日は、国際エネルギー機関(IEA)が、ウクライナ危機に対応するため、先進国が協調して、6千万バレルの追加の備蓄

放出を決めたことで、需給緩和期待から、大幅続落した。また、先週末の米国の原油在庫が予想外の積み増しとなったことも値下がり要因となった。1日に続き、終値で100ドルを割った。5月限の終値は、前日比5.73ドル安の96.23ドル。

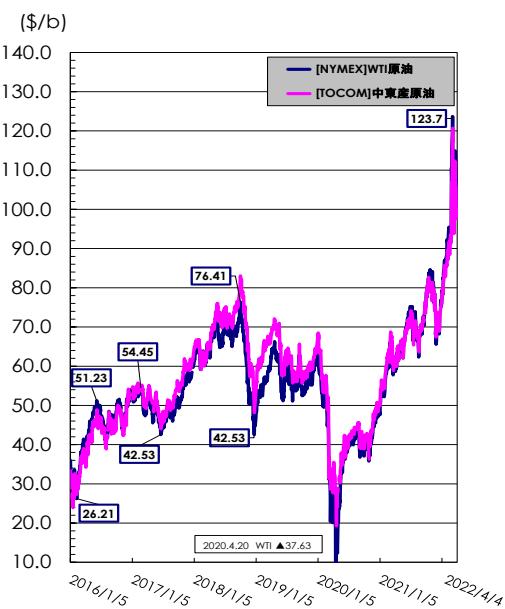
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、3月24日～30日の間、106.40～115.50ドルの範囲で推移した。3月31日105.60ドル、4月1日101.10ドル、4日103.00ドル、5日106.60ドル、6日104.00ドルで推移した。

為替は、3月24日～30日の間、121.07～124.22円の範囲で推移した。3月31日122.39円、4月1日122.20円、4日122.42円、5日122.56円、6日123.90円で推移した。

財務省が3月30日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、65,172円/klで、前旬比1,407円高、ドル建て89.93ドルで前旬比2.08ドル高、為替レートは1ドル/115.22円。

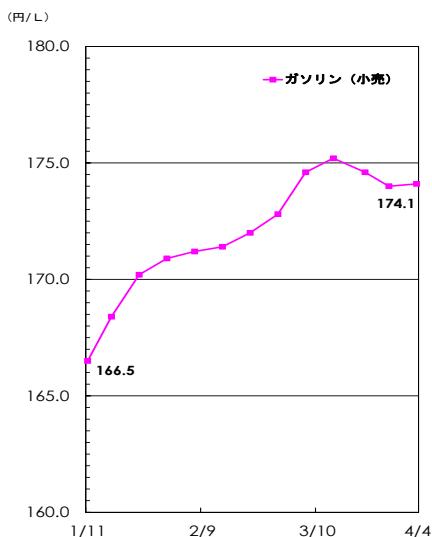
そのような中で、4月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は横ばい(18.4%ベース)であった。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も3週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりに値下がりが止まった。ガソリンの全国平均価格は174.1円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は20.7円。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/27～4/2	2,921	▼ -6	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.9	▼ -0.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/2	10,113	▲ 465	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/4	99.62	▼ -6.00	▲ 37.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/4	103.28	▼ -2.68	▲ 44.6
	原油 CIF 単価 (\$/bbl)	3月上旬	89.93	▲ 2.08	▲ 28.28
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	65,172	▲ 1,407	▲ 23,647
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	115.22	▲ 0.18	▼ -8.14
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/4	123.42	▼ -0.18	▼ -11.78



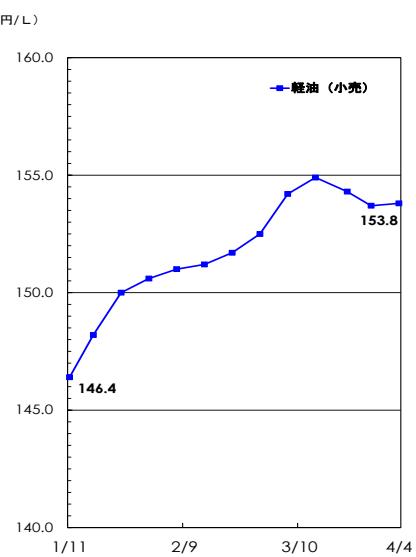
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/27 ~ 4/2	957	▲ 182
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	837	▲ 1
	輸出	"	109	▼ -19
	在庫	4/2	1,528	▲ 12
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/29 ~ 4/4	80.4	▲ 2.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/29 ~ 4/4	74.7	▼ -7.7
	(TOCOM/中部)	4/4	80.0	▼ -1.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/4	174.1	▲ 0.1
				▲ 23.8

※業転、先物価格は税抜き価格

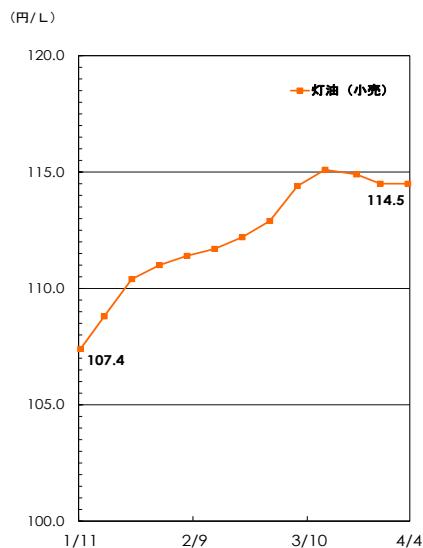


軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/27 ~ 4/2	724	▲ 1
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	595	▼ -16
	輸出	"	221	▲ 138
	在庫	4/2	1,167	▼ -92
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/29 ~ 4/4	81.1	▲ 2.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/29 ~ 4/4	91.3	▲ 0.2
	(TOCOM/中部)	4/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/4	153.8	▲ 0.1
				▲ 23.3

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/27 ~ 4/2	200	▼ -67
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	286	▼ -29
	輸出	"	0	► 0
	在庫	4/2	1,026	▼ -87
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/29 ~ 4/4	80.3	▲ 1.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/29 ~ 4/4	78.1	▼ -2.7
	(TOCOM/中部)	4/4	80.0	▼ -1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/4	114.5	► 0.0
				▲ 22.9



■ 関連情報

1 海外/原油

4月6日のNYMEX先物原油は、国際エネルギー機関（IEA）で、先進国が6千万バレルに上る追加の備蓄放出を決め、31日バイデン大統領が発表した米国の史上最大の備蓄放出1億8千万バレル（日量1千万バレル、6か月間）と合わせて、合計2億4千万バレルの放出規模となったことで、需給緩和が予想されるとして、大幅に続落した。また、同日発表の米国エネルギー情報局（EIA）の先週末（1日）時点の米国の石油在庫週報で、原油在庫が240万バレル増と市場予想（210万バレル減）に反する積み増しとなったことで、米国内の需給緩和が意識されたことも値下がり要因となった。5月限の終値は前日比5.73ドル安の96.23ドル、6月限は5.27ドル安の95.41ドルだった。

EIAによると、4月4日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.1セント値下がりの1ガロン4.170ドル（135.8円／㍑）、ディーゼルは同4.1セント値上がりの5.144ドル（167.5円／㍑）となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりとなった。

2 国内/製品需給 （1）出荷

石連週報によれば、2022年3月27日～4月2日に休止したトッパー能力は33.3万バレル/日で、前週に対して9.7万バレル/日減少した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は292.1万㎘と、前週に比べ0.6万㎘減少。前年に対しては24.8万㎘の増加。トッパー稼働率は75.9%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては6.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/23.5%増、ジェット/1.3%減、灯油/25.2%減、軽油/0.1%増、A重油/20.9%減、C重油/34.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万㎘（前週比5.4万㎘減）。軽油の輸出は22.1万㎘（前週比13.8万㎘増）。

出荷（輸入分を除く）は前週比で灯油、軽油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットが減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は83.7万㎘（前週0.1%増）と3週連続で増加した。ジェット10.0万㎘（前週72.5%増）、灯油28.6万㎘（前週9.0%減）、軽油59.5万㎘（前週増）、C重油22.4万㎘（前週36.7%増）。

2.7%減）、A重油21.9万㎘（前週8.2%増）、C重油22.4万㎘（前週比36.7%増）。

(単位：千㎘)

	今週 (3/27 ~ 4/2)	前週 (3/20 ~ 3/26)	前週比
ガソリン	837	836	▲ 1 (0%)
ジェット燃料	100	58	▲ 42 (72%)
灯油	286	315	▼ -29 (-9%)
軽油	595	611	▼ -16 (-3%)
A重油	219	202	▲ 17 (8%)
C重油	224	164	▲ 60 (37%)
合 計	2,261	2,186	▲ 75 (3%)

※今週出荷量＝（前週末在庫+今週生産+今週輸入）－（今週輸出+今週末在庫）

2 国内/製品需給 （2）在庫

4月4日時点の在庫は、ガソリンが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で減少となった。

ガソリンは152.8万㎘、前週差1.2万㎘増。前年に対しては21.5万㎘少ない。

灯油は102.6万㎘、前週差8.7万㎘減。前年に対しては40.4万㎘少ない。

軽油は116.7万㎘、前週差9.2万㎘減。前年に対しては30.1万㎘少ない。

A重油は63.5万㎘、前週差3.4万㎘減。前年に対しては10.2万㎘少ない。

C重油は148.4万㎘、前週差3.3万㎘減。前年に対しては27.8万㎘少ない。

(単位：千㎘)

	今週 (4/2)	前週 (3/26)	前週比
ガソリン	1,528	1,516	▲ 12 (1%)
ジェット燃料	726	746	▼ -20 (-3%)
灯油	1,026	1,113	▼ -87 (-8%)
軽油	1,167	1,259	▼ -92 (-7%)
A重油	635	669	▼ -34 (-5%)
C重油	1,484	1,517	▼ -33 (-2%)
合 計	6,566	6,820	▼ -254 (-3.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月29日～4月4日の指標原油価格は前週比で大きく値下がりし、為替レートは円安だったが、元売会社の原油コストは、4.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに、前週の補助金額25.0円を加えたコスト上昇額20.5円に、補助金20.7円が支給されることから、次週(4/7～4/13)の元売会社の実質的な卸価格は0.2円の値

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月29日～4月4日の製品スポット市況は、3月22日～28日平均と比べ、先物ガソリンと先物灯油の大幅な値下がりを除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近週(3/29～4/4)の陸上スポット価格平均値は、前週(3/22～3/28)比で、ガソリンは2.0円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は2.0円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/29～4/4)に、前週(3/22～3/28)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは7.7円の値下がり、灯油は2.7円の値下がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

下げとなった模様。

		(単位:円/㍑)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (3/29～4/4)	前週 (3/22～3/28)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	80.4	78.4	▲ 2.0
	灯油	80.3	78.4	▲ 1.9
	軽油	81.1	79.1	▲ 2.0
[期近物/終値 [平均]]		(単位:円/㍑)		
先 物 価 格		今週 (3/29～4/4)	前週 (3/22～3/28)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	74.7	82.4	▼ -7.7
	灯油	78.1	80.8	▼ -2.7
	軽油	91.3	91.1	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/29～4/4実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.0	▼ -7.7	▼ -2.8
灯油	▲ 1.9	▼ -2.7	▼ -0.4
軽油	▲ 2.0	▲ 0.2	▲ 1.1
A重油	▲ 1.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.1円、軽油は同0.1円高の153.8円、灯油は18.7円ベースで同横ばいの2,061円(18.7円ベースでは同横ばいの114.5円)。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も3週ぶりの値上がり、灯油は3週ぶりに値下がりが止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは24県、横ばいは6道県、値下がりは17都府県だった。全国最安値は宮城県の169.0円、その次は岩手県の169.5円であった。他方、最高値は長崎県の182.7円だった。最も値上がりしたのは愛知県(前週比2.0円高)で、横ばいは北海道など6道県、最も値下がりしたのは東京都(前週比1.9円安)だった。

次回調査時(4/11)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源公表) [週動向]	今週 (4/4)	前週 (3/28)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	174.1	174.0	▲ 0.1
	灯油	114.5	114.5	➡ 0.0
	軽油	153.8	153.7	▲ 0.1

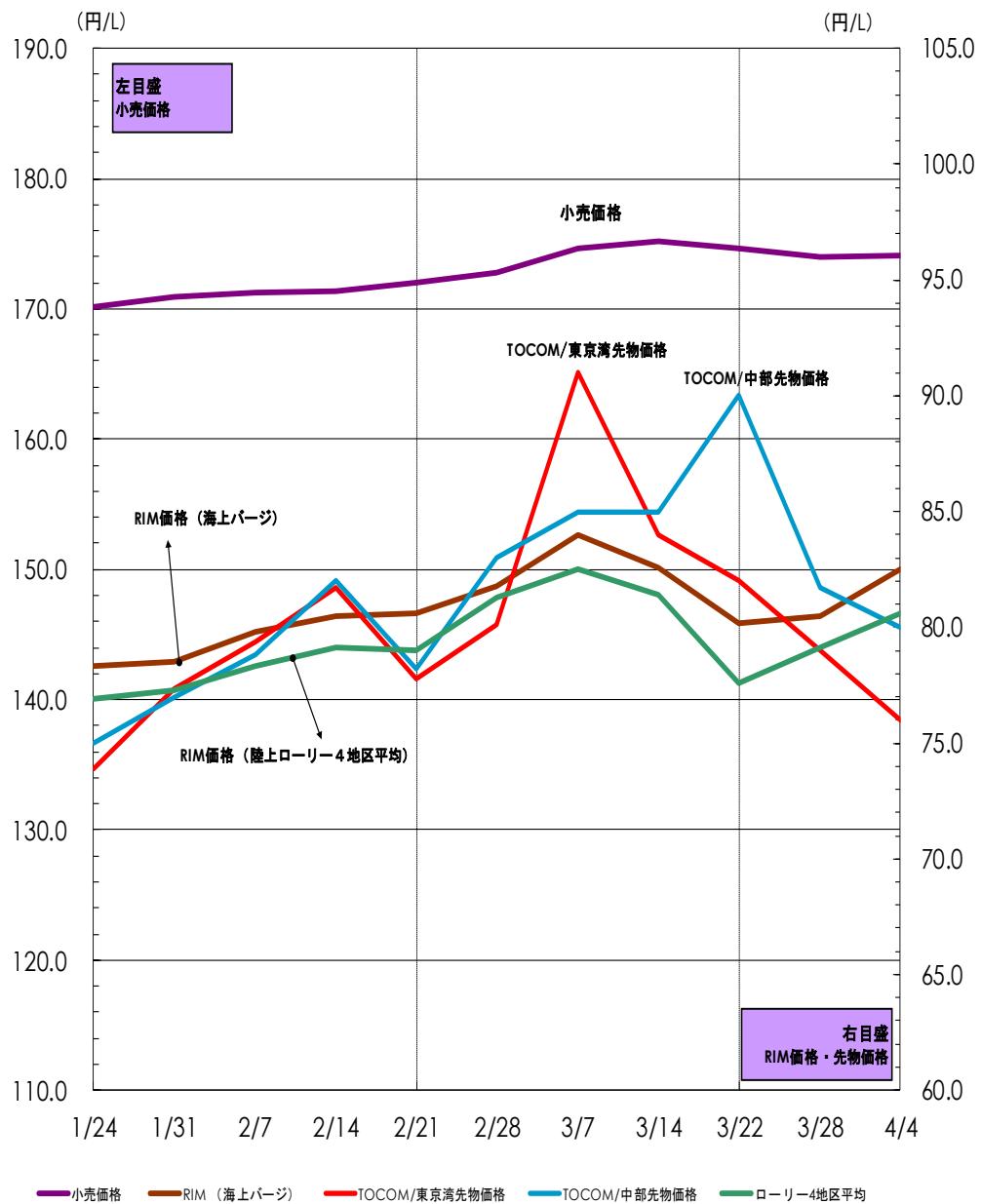
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/1/24 ~ 2022/4/4)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2022第3号）の公表は、4/15（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。